

校長通信

尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

輝け！シン尾花沢中

第187号

令和8年

2月18日

つたえゆかしい 校章よ おおむつましく 丘かげに

生徒による除雪・業者の方による排雪で、ぐっと春が近づく！

今冬、尾花沢市は大雪に見舞われ、1月23日（金）には豪雪対策本部が設置されました。一方、2月15日（日）の山形新聞では、山形市の1月の最深積雪は15cmで「かなり少ない」とのことでした。肘折や大井沢に次ぐ、小国よりも多い最深積雪量（182cm）ということで、尾花沢らしさが際立った今年の冬だったと言えるのではないのでしょうか。

本校においても、除雪で寄せられた雪で駐車場が非常に狭くなったり、落雪により軒下に1階を覆うほどの雪山ができてしまいました。

しかし、尾中生は雪に負けてはいません。

右の写真は、JRC委員会による除雪活動です。

また、外掃除の生徒も楽しく一生懸命軒下の雪山を崩して道路に散らかして除雪していました。外掃除の班員は、授業が終了すると急いで外に出て除雪してくれたそうです。班員のうち、押切拳志朗さん（3年）、西尾オーエンさん（3年）、三瓶耀斗さん（1年）は、安全を確認しながら、校長室から手が届きそうなくらい高い雪山に上り、スノーダンプやスコップを使って雪を崩してくれました。尾中生の頑張りに感謝です。ただし、雪山は「ドン・キホーテが立ち向かった風車」のごとく、依然としてシン尾花沢中の前に立ちはだかっていました。



そして、市費での業者の方による排雪作業が、14日（土）から3日間行われました。

■劇的 before→after



重機の力はすごいです。あんなに高かった雪山が、たくさんあった雪が、きれいになりました。おかげさまで、駐車場は以前と同様の収容力を取り戻しました。（※今後の天候状況により、引き続き屋根からの落雪に十分に注意して、駐車場所を判断してください）

尾中生の前向きな除雪活動と業者の方々の排雪活動のおかげで、学校施設が本来の機能を取り戻しつつあります。また、市費ですので地域の方々のご支援でもあります。

シン尾花沢中は生徒・地域に守られていることを改めて実感したところです。

【文責：校長 工藤雅史】